

令和7年度 第2回 幼稚園運営連絡会報告書

○幼稚園評価について(園長)

- ・運動遊びの低下が見られるため、意識的に体力づくりや意欲を育てる活動を充実させていく。
- ・預かり保育については、時間の拡大により利用が増加しており、期待や関心が高まっている一方で課題もある。
- ・教育時間の充実を図るとともに、午後の時間をゆったり過ごすなど、預かり保育ならではの活動を工夫していく。また、法政大学と連携し、学生による『マジックショー』など、子どもたちが楽しめる活動も取り入れていく予定である。
- ・預かり保育の拡充は園児募集の面でもよい影響があり、入園児数の増加にもつながっている。
- ・すくわくプログラムでは、自然との触れ合いを大切にしたい遊びを実施していただいている。冬の活動では5歳児は万華鏡づくり、4歳児は傘袋ロケットなど、子どもたちの探究心につながる活動を行っていただいた。

○事務局より

幼稚園の様子について

令和7年度のスタートカリキュラムについて(主任)

- ・小学校との連携について、昨年度3月から話し合いを進めてきた。幼稚園での経験をどのように小学校へつなげていくかを検討している。
- ・入学当初は、サークルタイムを取り入れ、顔を見ながら話すことで、親しみの気持ちをもったり、教師や友達のことを知ったりできるようにした。また、教師が一方的に進めるのではなく、今までの経験を子どもたちに問いかけながら子ども自身が考えたり、必要感をもったりして生活や学習を進められるように工夫した。
- ・保育や授業を見合ったり、園の職員が授業に参加したりした。終わった後に振り返りをすることで、活動や授業、子どもたちへの関わりについての教師の意図が分かり、互いの理解が深まった。
- ・幼児期の経験と小学校生活とのつながりを表した表を作成した。イラストを入れ、イメージしやすいように工夫した。今は、架け橋期のカリキュラムについて小学校や区内の保育園の先生と協議している。

そら組の様子について

- ・修了に向けて、さまざまな活動を行っている。やま組への当番活動の引き継ぎも進めており、「なぜ引き継ぎが必要なのか」を子どもたちと考えながら取り組めるように話を進めている。
- ・引継ぎでは、これまで自分たちがしてもらってきたことが基盤になっていると感じる。昨年のそら組からしてもらったことを思い出したり、1年生や5年生との交流で自分がしてもらったように関わったりする姿が見られた。活動だけでなく、「気持ちの引き継ぎ」が行われていることを日々感じている。

幼小交流について(4歳児担任)

- ・今年度は小学校5年生と3回ほど交流した。他にも2年生と4歳児で学級で楽しんでいる遊び、1年生とは保育園の5歳児も一緒に昔遊びや小学校生活に期待がもてる活動を楽しんだ。回数を重ねる中で、お互いに気持ちが打ち解け、優しくしてもらった経験が子どもたちの心に残っている様子が見られた。
- ・先日の体験入園では、自分たちがしてもらったことを、小さい子にしてあげようとする姿も見られた。
- ・やま組は、経験したことを遊びとして広げていく力がある。例えば、交流で行ったボーリング遊びを、日常の遊びの中で再現する様子も見られた。今後つながりを深めていきたい。

やま組の様子について

- 進級当初は、一人ひとりが思いやこだわりをもっている良さがある一方で、不安な様子も見られた。日々の遊びやこども会などの行事を通して、みんなで過ごす楽しさや一体感が育ってきている。
- 年長児の修了が近づき、「次は自分たちが年長！」という気持ちが芽生えるような活動をしているが、その一方で、不安な姿も見られる。そら組になるから頑張るという気持ちだけでなく、「自分たちならそら組になれる」という自信をもって進級できるようにしていく。

園内研究について(3歳児担任)

- ・研究主題は「探究」。麴町幼稚園における「探究」とは何かを考えながら研究を進めてきた。
- 研究保育では対象児を設定し、「幼児の姿」「環境」「援助」「友達との関わり」「教師との関わり」の5つの視点や、教師が感じたことや考えたことを自由に付箋に書いて共有した。そのことで協議が活発になり、より深い話し合いにつながった。
- ・「この子に合った援助は何か」を考える中で、多くのアイデアが出され、翌日の保育へとつなげることができた。
 - ・探究を引き出すポイントの表を成果物として作成した。表の内容には、『麴町カリキュラ

ム』を参考にして取り入れている。この表は、来年度にも引継ぎ、具体化や精査を行っていく。

はな組の様子について

・残り一か月を切り、進級への見通しをもてるよう、やま組の姿を話題に取り上げたり、新入園児のことを伝えたりしている。

入園当初からの日々の経験も踏まえ、身の回りのことに自分から取り組もうとしたり、友達と関わりながら遊びを楽しみ、自分の思いもいろいろな方法で表すようになったりしている。

・自信をもって進級できるようにすることを一番の目標としながら、残りの生活も、子どもたちと一緒に楽しんでいきたい。

○懇談・意見交換等

・すくわくプログラムでは、子どもたちが熱心に取り組んでいる様子が印象的だった。

・ものづくりの遊びでは、子どもたちがそれぞれに探究している姿が見られた。

・以前から取り組んでいる稲の活動では、ネズミの被害により収穫が難しい状況だったが、わずかながら収穫することができた。

・なぜ稲が食べられてしまったのか話し合う中で、「ネズミは稲を育てることができないから仕方がない」という子どもの発言があり、そのような思いやりの気持ちが芽生えていることが素晴らしいと感じた。

・幼小接続について、同じ敷地内にあることで自然な形で交流ができており、そのような経験は小学校生活にも生きていくと思う。

・先生方が愛情をもって子どもたちに接している様子がよく伝わってきた。

・写真や話、手書きのイラストからも温かさが感じられ、保護者も安心できるものだと感じた。

・先生方の熱心な姿勢を感じた。

・寛容な関わりは大切だと改めて感じている。

・昔遊びでは、子どもたち一人ひとりの個性が見られて面白かった。また、学年によって雰囲気はかなり違うことも実感した。

・預かり保育やお弁当給食にとっても興味をもった。

・食べられるもの・食べられないものがある中で、最初は難しくても、1年経つと食べられるようになっていく子どもたちが多いと感じている。

・学級みんなで同じものを食べることで刺激を与え合い、楽しい給食になっていると感じた。

・弁当給食について、本当は苦手でも、「すごいね」と声をかけてもらったことで食べられるようになる姿があることを感じた。家でも、「幼稚園で食べたから大丈夫」と言うことも

あり、園での経験の大きさを感じた。久しぶりの遠足でお弁当を食べた際、「お母さんのお弁当がよかった」と話す子どもの言葉も印象的だった。

- ・ネズミ騒動の出来事から子どもたち自身で考えた結論を劇にするという取り組みも素晴らしいと感じた。

- ・『こどもかい』が終わった後、ネズミの死骸を目撃し、対応に困ったが、町会長の方が駆除をしてくださり、地域とのつながりを感じた。

- ・外に出かけた際、遠くから交流で仲良くなった6年生が声をかけてくれたことがあり、保幼小連携の繋がりや継続を感じた。

- ・実際の出来事を劇につなげていくことは、とても素敵な取組だと思う。

- ・PTAとして関わる中で、子どもの一日一日は、大人以上に大切なものだと感じている。行事だけでなく、日々どのように過ごしているかが大切だと思う。

- ・保幼小合同研修会では、年度初めから研究の進め方について検討し、スタートカリキュラムを含めて取り組んできた。その過程で、小学校としても多くの学びがあったと感じている。

- ・現在の正解がずっと有効とは限らない。その都度の最適な教育を考えていく必要がある。

- ・幼稚園では、遊びや経験を通して学びが生まれることの重要性を感じた。

- ・幼少交流で幼児1人と5年生複数で遊ぶ場面があったが、不安な様子が全くなく、これまでの積み重ねによる信頼関係を感じた。